

- ① 糖代謝 血液中の重要な成分であるアルブミンと呼ばれるタンパクを合成します。アルブミンはいろいろな物質と結合してそれを全身に運びます。また、アルブミンの量は薬剤の効き目にも影響します。
- ② タンパク合成 血液中の重要な成分であるアルブミンと呼ばれるタンパクを合成します。アルブミンはいろいろな物質と結合してそれを全身に運びます。また、アルブミンの量は薬剤の効き目にも影響します。
- ③ 脂質合成 体に必要な量の中性脂肪やコレステロールをつくります。
- ④ ビタミンの貯蔵 油に溶けるビタミンを貯蔵します。
- ⑤ 胆汁の生成 胆汁の主成分で、脂肪を分解しやすくする胆汁酸をつくります。

肝臓のはたらき



肝臓は最も重い臓器で、健康な成人では約1,200～1,500gの重量があります。形状は直角三角形の角を丸くしたような形をしており、右上腹部の肋骨の奥に位置します。肝臓に異常が起つても、症状がなかなか現れないとともいわれています。

また、肝臓は活発な再生能力を持つており、4分の1に切除されても復元できるといわれています。肝臓の働きは多種多様で、主なものは次の一通りです。

⑥ 解毒作用 アルコールや薬物など体にとっての異物を排泄しやすい無毒なものに変換します。肝臓にある「代謝酵素」の働きが人によって違うためこの解毒作用は人によって働き具合が異なります。肝臓が「代謝酵素」の働きが人によって違うためです。この代謝酵素のおかげで、肝臓が解毒作用を発揮したり、栄養分をエネルギーに変えたりできるのです。また、代謝酵素の数や働きの強さが薬の効き目やお酒の強さなどにも影響します。

このように肝臓には多くの役割があります。働くべきないように努めましょう。

肝臓の病気

肝臓の病気は様々ありますが、食生活の乱れやアルコールの摂り過ぎによる「脂肪肝」から「肝硬変」や「肝癌」など命に関わるものまであります。肝臓の病気は、その原因によって大きく4つに分けられます。

| | |
|--------|---|
| ウイルス性 | 肝炎を起こすウイルスは現在A～G型の7種類が知られています。ウイルスに感染した食べ物や水などで口から感染するものと、ウイルス感染者の血液や体液から感染するものがあります。 |
| アルコール性 | 多量の飲酒により、アルコールを分解している肝臓に負担をかけてしまいます。 |
| 薬剤性 | 薬剤に対するアレルギー反応や、中毒反応として肝機能に影響が出てしまいます。 |
| 自己免疫性 | 免疫反応の異常ににより、自分の体（肝臓）を攻撃してしまいます。 |



肝臓に対するアルコールの影響



飲酒により体内に入ったアルコールは、主に肝臓で分解され、全身に流れていきます。はじめは毒性の強い「アセトアルデヒド」になり、次に無毒化されて「酢酸」になります。体外へと排出されます。この「アセトアルデヒド」が悪酔いや一日酔いの原因となります。日

本人の4割は、アセトアルデヒドが体内に残って酔いが続き、お酒に弱い人が動きが弱いため、アセトアルデヒドが体

葉酸などの治療が困難になります。そのまま放置していると、「肝不全」や「肝癌」になります。

肝臓の病気は段階的に進行します。何らかの原因により肝臓に炎症が起つて肝炎となります。炎症が6か月以内に治まる「急性肝炎」、が6か月以上続く「慢性肝炎」と呼ばれます。慢性肝炎のうち、炎症を抑えようと肝臓が再生を繰り返すことで線維化が起り、正常な肝細胞が少なくなってしまいます。そしてだんだんと肝臓が小さく硬くなってしまふた状態を「肝硬変」と呼び、さらに細胞が破壊されてしまうと「肝癌」となります。

これまでウイルス性肝炎が大部分でしたが、最近ではアルコールを摂つていてもアルコール性肝炎のような症状が起こるNASH（非アルコール性脂肪肝）という病気が増えてきています。早期発見・早期治療が第一となるため、定期的に肝機能のチェックをしましょう。

肝臓は「沈黙の臓器」であり、よほどこのことがない限り音を上げない臓器です。したがって症状が出てからでは遅く、早期発見がなにより大切です。健康診断など定期的に受けるようにしましょう。普段の生活でも、2日間ほど休ませると肝臓の機能が回復するといわれていますので、毎日お酒を飲む方は「休肝日」をもうけ、正常な働きに戻しましょう。



ホームページはこちら! ▶ <http://drug-kusatsuya.com>

草津屋薬局



熊本市南区川尻1丁目3-13
(営業時間) 8:30～21:00
(定休日) 毎週日曜日

TEL (096) 357-9311